

学生部 2010 年度活動報告

「適切な学びの環境の実現」に向けた 3 年目の取り組み

中村 綾子¹⁾ 大坂和可子²⁾ 大熊 恵子³⁾ 大久保暢子⁴⁾ 松本 真緒⁵⁾
 百瀬 綾子⁵⁾ 横川 彩夏⁵⁾ 安田みなみ⁶⁾ 相原 令奈⁷⁾ 後藤 千恵⁷⁾
 山口保菜未⁷⁾ 安部 克憲⁸⁾ 平澤 洋美⁸⁾ 川野 嘉子⁹⁾ 鶴若 麻理¹⁰⁾
 小林 真朝¹¹⁾ 稲田 昇三¹²⁾ 天岡 幸¹³⁾ 菱田 治子¹⁴⁾

Student Affairs Section FY2010 Activity Report: The Third Year Approach for a Suitable Learning Environment

Ayako NAKAMURA, RN, MN¹⁾ Wakako OSAKA, RN, MN²⁾ Keiko OOKUMA, RN, MN³⁾
 Nobuko OKUBO, RN, PhD⁴⁾ Mao MATSUMOTO⁵⁾ Ayako MOMOSE⁵⁾
 Ayaka YOKOGAWA⁵⁾ Minami YASUDA⁶⁾ Reina AIHARA⁷⁾ Chie GOTOH⁷⁾
 Honami YAMAGUCHI⁷⁾ Katsunori ABE⁸⁾ Hiromi HIRASAWA⁸⁾ Yoshiko KAWANO⁹⁾
 Mari TSURUWAKA, PhD¹⁰⁾ Maasa KOBAYASHI, RN, MN¹¹⁾ Shozo INADA¹²⁾
 Miyuki AMAOKA¹³⁾ Haruko HISHIDA, MA¹⁴⁾

[Abstract]

In 2008, the Student Affairs Division of St. Luke's College of Nursing launched an initiative for acquiring appropriate communication skills and basic manners so that students can effectively fulfill this institution's educational objectives and benefit from a well-rounded campus life. It is three years since students started the activities under the slogan of "Establishing a suitable learning environment". In 2010, they continued to carry on these activities, making a valuation of what they did for these three years. The actual activities in this year were: promotion of exchange greetings, implementation of public relations at the school festival, campaign for collecting plastic bottle caps. The feedback on the above activities from their peers and teachers showed the expansion of good manner awareness.

However, some bad manners were still pointed out, and the activities to promote good manners needed to be continued. In order to further promote and appreciate these activities, faculty staff could show support for such student initiatives, cooperating closely with other relating committee members.

-
- 1) 聖路加看護大学 看護管理学 助教, 学生部 St.Luke's College of Nursing, Nursing Administration
 2) 聖路加看護大学 成人看護学 助教, 学生部 St.Luke's College of Nursing, Adult Nursing
 3) 聖路加看護大学 精神看護学 助教, 学生部 St.Luke's College of Nursing, Psychiatric & Mental Health Nursing
 4) 聖路加看護大学 基礎看護学 准教授, 学生部 St.Luke's College of Nursing, Fundamentals of Nursing
 5) 聖路加看護大学 学部 4 年 St.Luke's College of Nursing, Nursing Student, Class of 2011
 6) 聖路加看護大学 学部 3 年 St.Luke's College of Nursing, Nursing Student, Class of 2012
 7) 聖路加看護大学 学部 2 年 St.Luke's College of Nursing, Nursing Student, Class of 2013
 8) 聖路加看護大学 学部 1 年 St.Luke's College of Nursing, Nursing Student, Class of 2014
 9) 聖路加看護大学 学士編入 1 年 St.Luke's College of Nursing, Nursing Student, Class of 2013
 10) 聖路加看護大学 生命倫理学 准教授, 学生部 St.Luke's College of Nursing, Bioethics
 11) 聖路加看護大学 地域看護学 助教, 学生部 St.Luke's College of Nursing, Community Health Nursing
 12) 聖路加看護大学 総務課長, 学生部 St.Luke's College of Nursing, Administration & General Affairs Section
 13) 聖路加看護大学 総務課, 学生部 St.Luke's College of Nursing, Administration & General Affairs Section
 14) 聖路加看護大学 英語 教授, 学生部長 St.Luke's College of Nursing, English

〔Key words〕 suitable learning environment, manner awareness

〔要 旨〕

聖路加看護大学学生部は、2008年度より「適切な学びの環境の実現」と題し、適切なコミュニケーションと基本的マナーの習得のための取り組みを行っている。本年度は、今までの活動の充実と継続を目標として学生主体の活動を行った。具体的には学生有志による学生マナー向上委員会の継続的活動、体育デーにおける挨拶活動、白楊祭での広報、ペットボトルキャップ収集キャンペーンが行われた。これらの取り組みを、学生、教職員へのアンケートから評価した。マナー向上委員会の知名度は上がっているものの、マナー違反と考えられる具体的な行為に関する指摘も多くあり、今後もマナーに関する取り組みを継続する必要があると考えられる。適切な学びの環境を実現していくために、今後、マナーに関する学生の主体的な行動を支援しつつ、各関係機関や委員会、教職員とも連携しながら評価していく必要があると考えられる。

〔キーワード〕 マナー、適切なコミュニケーション、学びの環境、学生マナー向上委員会

I. はじめに

聖路加看護大学学生部は、従来の学生支援活動に加え、2008年度より学生が本学の教育目標を達成し、豊かな学園生活が過ごせるよう「適切な学びの環境の実現」と題し、適切なコミュニケーションと基本的マナーの習得のための取り組みを行ってきた。初年度は、この新しい取り組みを本学の学生、教職員に周知し、コミュニケーションやマナーについて考える機会を持つことが主な活動であった。2年目の昨年度は、適切な学びの環境の実現に向けた行動変容を目標として活動を計画、実施した。今年度は、今までの活動の継続と、活動の更なる充実のために2年間の振り返りと評価を行った(図1)。以下にその内容を報告する。

II. 本年度の目標及び活動計画

この2年間の取り組みにより、本学の学生、教職員に「適切な学びの環境の実現」に関する取り組みは、広く周知され、一人ひとりに意識付けられ、何らかの行動変容が見られているのではないかと考えられた。そのため、本年度は、今までに行ってきた活動の継続と、2年間の振り返りを行い、「適切な学びの環境の実現」に関する認識と行動への移行を大学全体に高めていくことを目標とした。具体的な活動計画は実施内容で後述する。

III. 本年度の実施内容と評価

1. マナーアンケートの結果と得られた示唆について

マナー向上委員会ではマナーに関するこれまでの取り組みが学生及び教職員にどのように理解されているのを知ること、および今後の活動への示唆を得ることを目

表1 アンケートの配布部数および回収数及び回収率

学年	配布数(枚)	回収数(枚)	回収率(%)
1	95	49	51.6
2	70	23	32.9
3	90	22	24.4
4	91	31	34.1
教職員	56	36	64.3

的とし、学部 of 全学生および常勤の教職員を対象に2009年2月(3年生のみ2010年4月)にアンケート調査を実施した。なお、学年の表記は2009年度の学年である。

アンケートの配布部数および回収数、および回収率は表1のとおりであった。

このアンケート調査が倫理審査を経たものではないことから、結果の詳述は避け、ここでは今回のアンケートの結果の傾向と、そこから得られた示唆を述べたい。

まず、マナー向上委員会の活動については学生、教職員ともに多くのものが知っていると答えており、学内での知名度は高く、その中でも、学生に人気の高い学事行事である体育デー(全学のスポーツ大会)での挨拶運動や、学生主催で行う白楊祭(学園祭)における活動は広く知られている傾向にあった。また日常の「挨拶」については改善がみられたと認識されていることが分かった。よって、学生に人気の高い行事や学生主催のイベント等で訴えかけることは一定の効果を示すことが示唆された。

一方で、マナーの改善は見られないという回答や、学内におけるマナー違反と考えられる具体的な行為に関する指摘も多くあり、今後もマナーに関する取り組みを継続する必要があると考えられた。

また、マナー違反の行為として指摘される内容については、1, 2年生は授業態度やラウンジ、トイレの使用状況を挙げ、3, 4年生は図書館やメディアルームの使

大学のMISSION: 本学はキリスト教精神を基盤として、看護保健職域に従事する看護専門指導者の育成を目的とする。
 学生部の活動目的: 将来、人とのつながりを大切に仕事をしていく専門職業人となるため、適切なコミュニケーションによる学びの環境を、学園全体で醸成することを目的とする。
 学生部の活動目標: 他者を思いやりながら、お互いが気持ちよく生活できる学びの環境を学生・教職員ともに考える。適切な学びの環境の実現のための行動を考える。
 考えられた行動が実践され、お互いが気持ちよく生活できる学びの環境が作られる。

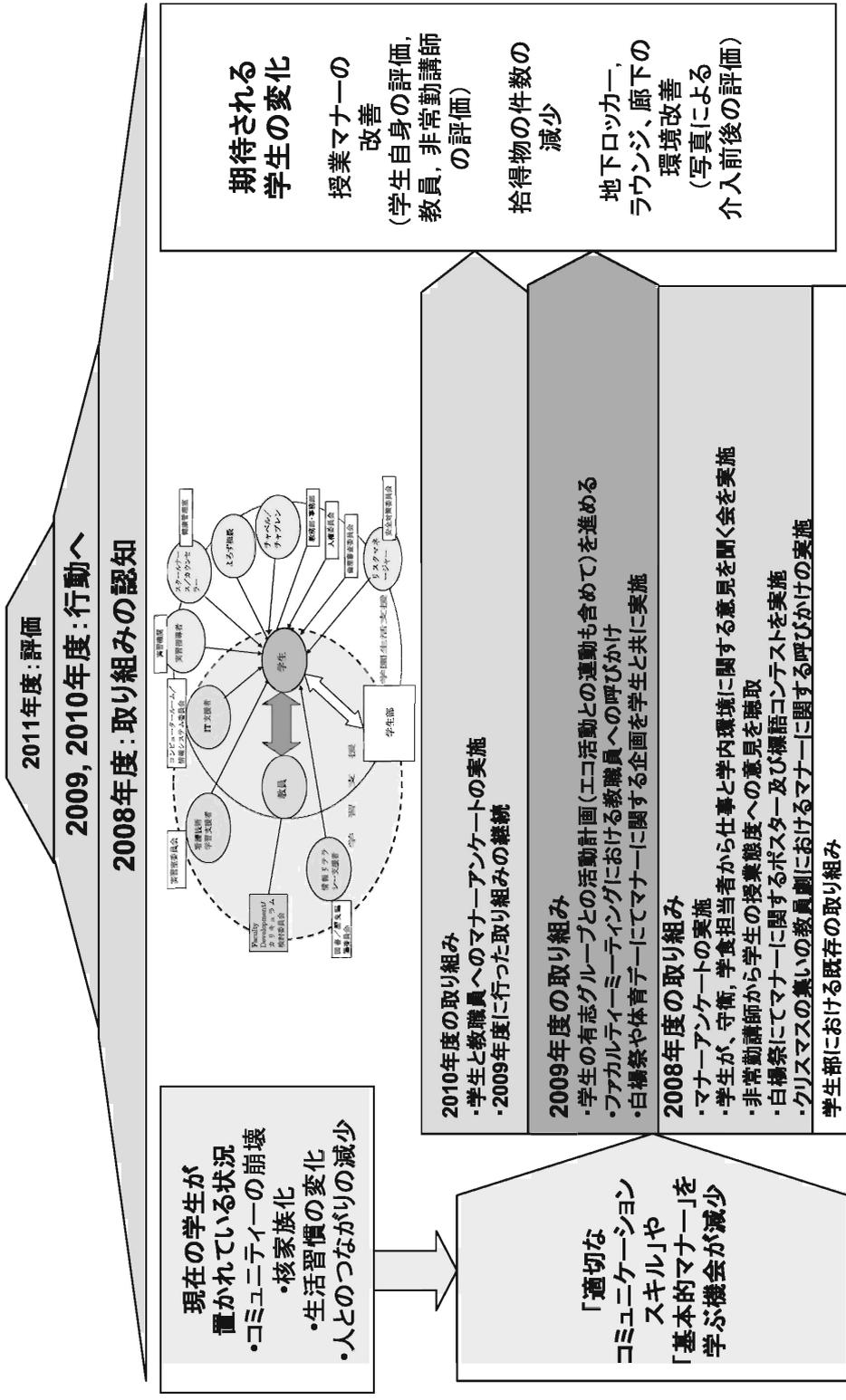


図1 2010年度学生部の活動：「適切な学びの環境の実現」



写真1 体育デーにおける挨拶運動



写真2 体育デーにおけるマナー大賞の発表

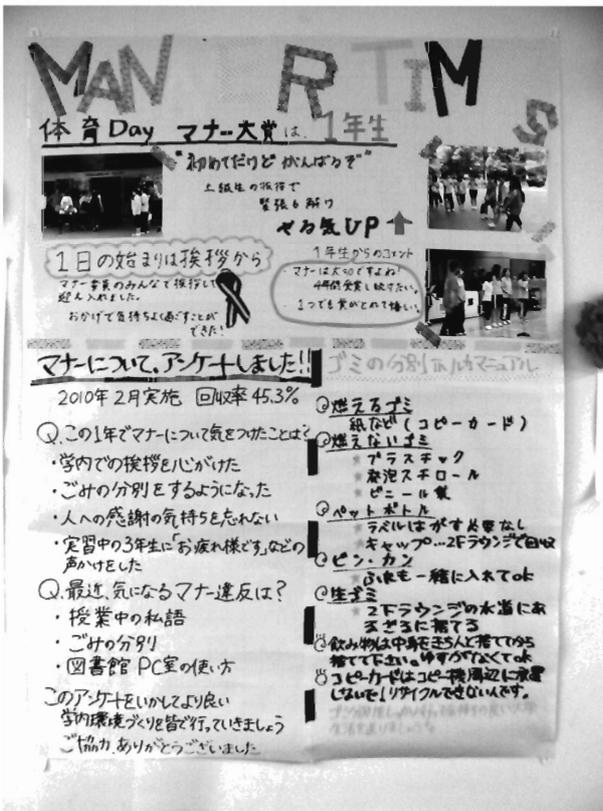


写真3 白楊祭におけるマナー新聞の掲示

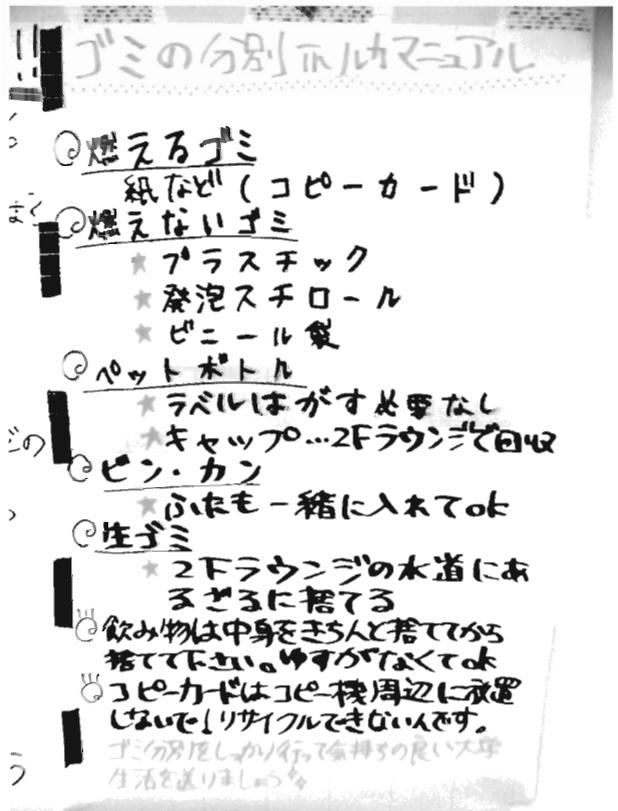


写真4 白楊祭におけるマナーに関する掲示

用に関する問題を挙げていた。これは、1, 2年生は教室で講義形式の授業を受ける時間が長く、3, 4年生になると図書館やメディアルームにおける個別の学習の機会が増えることと関連していると考えられ、過ごす時間が長い場所でのマナーを問題ととらえる傾向があることが示唆された。このことから委員会の活動も、テーマによっては、対象を絞ってキャンペーンを行うほうが効果的である可能性があると考えられた。

更に、アンケート結果をもとに委員会を開催した結果、自由回答にあった、自ら行ったマナーに関する取り組みとして「出しっぱなしの水を止めた」といった回答があったことに関連して、「水道の蛇口を閉めても水がしっかり止まらないところがある」といった指摘があった。こ

のことから、マナーの問題として捉えるだけでなく、施設環境の整備の問題として捉えることも重要であると考えられた。この指摘に基づき大学側は点検、修理を行った。

そして、授業中の私語、携帯メールの使用等、授業態度に関連する問題に関しては学生、教職員双方から多数の指摘があり、多くの者が問題と捉えていることをうかがわせた。

2. 昨年度までに行われた活動の継続的な取り組みについて

本年度も昨年度に引き続き、マナー向上委員会の活動を知ってもらい、個々の学生がマナーについて考える機

会となるよう学生が集う場（体育デー・白楊祭）での活動を中心に計画し実施した。

まず、2010 年 6 月 2 日（水）に開催された体育デーでは、昨年同様体育デー開始前 30 分を利用して、マナー向上委員および学生部教員がマナーリボンをつけて玄関に並び、参加する学生を挨拶で出迎える「挨拶運動」を実施した（写真 1）。体育デー競技中の応援のマナー違反があった場合にはマナー向上委員が声をかけ、応援マナーの向上を図った。また、体育デー競技中の応援、ゴミの分別、挨拶、試合開始時間の集合時間を守るなどのマナーが良かったチームには「マナー大賞」を授与し、今年度は 1 年生が受賞した（写真 2）。体育デー終了後はゴミの片付けなどの手伝いを行ったが、学生の応援席にゴミが放置されていたことから、開催終了後の体育デー委員会に参加しゴミの分別の周知徹底の必要性やゴミ箱の設置についての提案を行った。

2010 年 10 月 30 日（土）、31 日（日）に開催された白楊祭では、2010 年度のマナー壁新聞を作成し 3 階廊下に掲示し、前年度のマナーアンケート結果や体育デーでの活動の報告を行った（写真 3）。また、より多くの学生がマナー向上を意識できるようゴミの分別や挨拶などのマナーに関する掲示を行った（写真 4）。

昨年度より開始したペットボトルキャップの収集キャンペーンは継続しているものの、2 階ラウンジに設置した収集場所が乱雑でペットボトルごと破棄されていたり、キャップ回収の認知度が低い状況を改善するため、ペットボトルキャップの専用ボックスを設置した。その結果、キャンペーンに必要なキャップのみが専用ボックスに回収されるようになった。

今年度のマナー向上委員会の話し合いでは、教室でのマナーについての話し合いも行われた。特に、授業中の私語については改善されておらず、学生間での注意がしにくいと教員からも適宜注意してほしいとの意見があり、ファカルティミーティングで教員に授業中の学生の私語への対応を依頼した。

IV. 本年度の取り組みの評価から考えられる今後の課題

1. マナーアンケートから考えられる今後の課題

アンケート調査により、マナー向上委員会の活動はある程度認知されており、また効果ももたらしているといえ、行事等におけるキャンペーン活動は有用であると考えられた。今後は、これらの対象を広く捉えたキャンペーンのほか、対象を限定した活動を行うことでより効果的な活動が行えるものとする。

また、これまで「適切な学びの環境の実現」に関する取り組みにおいては、学生主体の活動であることを大切

にしてきたが、学生の自治に任せるだけではなく、マナーが守られる施設環境の整備や、授業マナー改善に向けた取り組みに関しては、教職員の介入も求められると考える。

更に、図書館の使用マナーに関しては図書委員会と、メディアルームの使用マナーに関しては情報委員会と、といったように、マナー向上委員会だけで解決しようとするのではなく、学内の各委員会とも連携しつつ、「適切な学びの環境の実現」に向けた取り組みをしていくことが効果的であると考えられた。

なお、今回のアンケートは全学を対象としたが、配布部数および回収部数とも少ないことから、回答には偏りがあることを踏まえ、今後の活動への参考にしたい。

2. 昨年度までに行われた活動の継続的な取り組みに関する考察と今後への課題

マナー向上委員会の活動も 3 年目となり、学生が主体となつての活動も定着してきた。今年度も多数の学生が集う場（体育デー・白楊祭）を中心に活動を実施したことにより、多くの学生にマナーについて考える機会となつていたのではないかと考えられる。

体育デーでの「挨拶運動」や「マナー大賞」は、多くの学生が笑顔で挨拶を交わし 1 日がスタートするすがすがしさを感じることができたり、マナーを守り応援したチームをたたえたりと、マナーを意識した結果心地よさを体感できる活動であり、「適切な学びの環境」を整える上で重要な役割を果たしているのではないかと考える。また、体育デーでのマナー向上に関する企画は、同じく学生が主体となつて開催する体育デー委員会と協働となる。今年度は事前に体育デー委員会にマナー向上委員会として実施したい活動を伝えるだけでなく、体育デー終了後の反省会へ積極的に参加し、マナーに関する改善点をフィードバックすることができ、次年度の課題につなげることができた。学生同士で次の課題に向けての工夫を話し合えるような活動に発展していることがうかがえる。

しかし、日常の大学での生活に関するマナー向上にはいまだ課題が残っている。特に図書館やパソコンルームでのマナーについては取り組むべき課題としてアンケートでもマナー向上委員会内でもあがっているものの、具体的な活動については検討段階である。今後話し合っていく予定である。

V. まとめ

2008 年度学生部活動報告（大久保他、2008.）にもあるように、2008 年度は、マナー活動「適切な学びの環境の実現」は、学園内に認知してもらうための年であり、

昨年度は行動に移す年（大熊他．2009．）であり，今年度はマナー活動の更なる充実とそれに準じた各々の行動変容を期待する年であった。

本年度は，マナー向上委員会の知名度はさらに高まり，「適切な学びの環境」の実現に向けて，マナーの改善も認められ，マナー活動の充実と効果は認められたと思われる。しかし，授業中の私語や図書館・コンピュータールームの使い方など，いまだに改善すべき点は多くあり，課題として残る結果となった。これらの内容は，図書委員，情報システム委員などの各関係委員会との連携を図ること，大学の各教職員の協力を求め，方策を再検討していく必要があると考えられた。

次年度は，学生部における「適切な学びの環境を目指して」活動の最終年度となることから，本年度の課題の解決に取り組みながら，評価と本取り組みの今後の継続について検討していく予定である。

引用文献

- 1) 大久保暢子他．(2009)．学生部 2008 年度活動報告「適切な学びの環境を目指して」．聖路加看護大学紀要．35(1)．110-117.
- 2) 大熊恵子他．(2010)．学生部 2009 年度活動報告「適切な学びの環境を目指して」．聖路加看護大学紀要．36(1)．32-37.